

平成21年人文学部文化コミュニケーション学科

教員研究業績一覧 (2009. 1. 1—12. 31)

Academic Achievements in 2009 :

Department of Culture and Communication, Faculty of Arts

凡例：

氏名 ①著書 ②論文・研究ノート ③翻訳 ④書評・随筆等 ⑤学会・研究会等での報告 ⑥上記以外の業績

日本語文化講座

- 沖 裕子 ①佐藤亮一編『全国方言辞典C D付き』三省堂(全430頁, 長野県の項執筆130～137頁) [共著] ② 1) 「日本語教員養成課程の目的と現状および課題」『大養協論集2008』(大学日本語教員養成課程研究協議会10～14頁) [単著] 2) 「発想と表現の地域差」『月刊言語』第38巻第4号(大修館書店16～23頁) [単著] ④「リレー・エッセイ「私が言語学者になったワケ」その64」『月刊『言語』メールマガジン<げんごろう>』第73号(2009年3月15日大修館書店) [単著] ⑤「発想と表現からみる日本語依頼談話のしくみと指導」(沖裕子・趙華敏)第5回中国大学日本語教育研究国際シンポジウム2009年12月13日(日)於同済大学(中国上海) [共同] ⑥ 1) 日本語教育学会誌査読協力者 2) 社会言語科学会理事(～2009年3月) 3) 同広報委員長(～2009年3月) 4) 同学会誌査読協力者 5) 日本語学会評議員 6) 同大辞典編集委員 7) 韓国日本語学会誌編集委員 8) 国立国語研究所全国方言調査委員(～2009年9月) 9) 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員(08年) 10) 科学研究費補助金基盤研究C19520389代表者
- 山田健三 ①信州大学人文学部日本語学研究室『安曇野市方言のいま—安曇野市の言語状態(方言状態)の実態解明と問題分析—』(平成19～20年度受託研究(安曇野市連携事業)報告書)信州大学人文学部日本語学研究室, 2009.03) [共著] ②「福州版一切経附載音釈の形成過程」(『信州大学人文学部人文科学論集〈文化コミュニケーション学科編〉』43号, pp. 1-12, 2009-03) [単著]
- 渡邊秀夫 ⑤ 1) 「日本古典文学における和漢比較研究」(漢学ワークショップ招待講演・北京日本学研究中心・7月23日) [単独] 2) 「漢文伝と唐代伝奇・物語」(和漢比較文学会第28回大会・公開シンポジウム「唐代伝奇と平安物語」パネリスト報告発表・9月26日・国学院大学渋谷キャンパス) [単独] ⑥ 1) 平成19年度～21年度学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)「古代礼楽思想と勅撰和歌集の和漢比較研究」(課題番号19520146)に基づく研究を代表者として実施。 2) 「古今集と漢文世界」(講演・10月26日・於京都女子大学)
- 坂口和寛 ②「日本語母語話者が自分の頭で『日本語』について考えるということ—日本語教育の視点から」(『日本文学会誌』第21号, pp. 1-20, 盛岡大学日本文学会) [単著] ⑤「日本語分析に有用な『よい例文』を作り出すストラテジーとそのトレーニング法の開発」

- (第32回日本語教育方法研究会, 平成21年3月21日, 神奈川大学) [共同] ⑥「第1回: 概論・『日本語教育』の基本を学ぶ」(平成21年度飯田市公民館「日本語支援者養成講座」, 平成21年11月15日, 飯田市公民館)
- 渡邊匡一 ② 1) よちり不動考(『説話文学研究』第44号, 説話文学会, 167-168頁 [単著] ⑤「俊海写『御遺言』について」(佛法紹隆寺研究会, 2009. 11. 15, 佛法紹隆寺) [単独] ⑥ 1) 説話文学会委員(平成19年10月~22年9月)
- 白井 純 ①『安曇野市方言のいま—安曇野市の言語状態(方言状態)の実態解明と問題分析—』平成19~20年度受託研究(安曇野市連携事業)報告書 信州大学人文学部日本語学研究室, 2009, 148頁 [共著] ② 1) (追加)「キリシタン版の連綿活字について」(『アジア・アフリカ言語文化研究』76, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2008, 5-20頁) [単著] 2) 「キリシタン版の仮名文字遣」(『訓点語と訓点資料』122輯, 訓点語学会, 2009, L1-L16頁) [単著] ⑤「「ひですの経」の仮名活字について」(プロジェクト研究会「「ひですの経」研究」, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2009. 11. 16) [単独] ⑥「キリシタン資料の計量的研究」(『計量国語学事典」, 計量国語学会編, 朝倉書店, 2009, 338-339頁)
- 松本和也 ① 1) 『昭和十年前後の太宰治 〈青年〉・メディア・テキスト』(ひつじ書房, 322頁) [単著] 2) 『文藝別冊 太宰治』(河出書房新社, 224頁) [共著] 3) 斎藤理生・松本和也編『新世紀 太宰治』(双文社出版, 298頁) [共著] 4) 安藤宏編『展望 太宰治』(ぎょうせい, 279頁) [共著] 5) 『太宰治『人間失格』を読み直す』(水声社, 216頁) [単著] ② 1) 「こえていこうとすること—日韓共同制作『その河をこえて, 五月』試論」(『人文科学論集〈文化コミュニケーション学科編〉」, 第43号, 信州大学人文学部, pp. 111-123) [単著] 2) 「歌舞伎としての乱歩—小説『人間豹』から歌舞伎『江戸宵闇妖鉤爪』へ—」(『大衆文化』, 創刊号, 立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター, pp. 27-40) [単著] 3) 「「私」の再起, 表現の達成—教室で読む太宰治「富嶽百景」」(『月刊国語教育』, 第29巻第4号, 東京法令出版, pp. 42-45) [単著] 4) 「主題としての描写, 批評としての小説—太宰治「女の決闘」試論—」(『文芸研究』, 第168集, 日本文芸研究会, pp. 31-43) [単著] ④「無頓着が突く核心 坂内正『小島信夫—性その深層と日常』」(『図書新聞』, 第2924号, 4面) [単著] ⑤「岸田國士『荒天吉日』試論」(日本近代演劇史研究会2008年度1月例会, 2009年1月10日, 共立女子大学) [単独] 2) 「十年代を見通しながら考える“昭和十年前後”」(「太宰治スタディーズ」の会, 2009年6月13日, 早稲田大学) [単独] 3) 「昭和十年前後の新進作家—石川淳/太宰治と『作品』」(「太宰治スタディーズ」の会・石川淳研究会共催研究会, 2009年9月19日, 埼玉大学東京ステーションカレッジ) [単独] 4) 「テキストの声/歴史—太宰治「地球図」・高木卓「獄門片影」・坂口安吾「イノチガケ」」(「太宰治スタディーズ」の会, 2009年9月20日, コラボ産学官プラザ in TOKYO) ⑥ 1) 「旧制弘高時代の津島修治(太宰治)」(『記念館だより』, 第48号, pp. 1-3) 2) 「演劇(と小説)をめぐる小島信夫の想像遍歴」(小島信夫『演劇の一場面 私の想像遍歴』[水声社], pp. 175-195) [単著] 3) 「太宰治『人間失格』を支えた人々—古田晁と津島美知子」(塩尻市立図書館・信州大学図書館, 2009年6月20日, 塩尻市保健福祉センター) 4) 「白井吉見と太宰治『人間失格』」

(信州大学・安曇野市連携市民大学講座, 2009年10月8日, 安曇野市堀金総合体育館ミーティングルーム) 5)「太宰治が「作家」になるとき—デビュー前の空白期をめぐって—」(サロンあがたの森第80回, 2009年12月12日, あがたの森文化会館)

比較言語文化講座

- 須澤 通 ①『ドイツ語史—社会・文化・メディアを背景として—』(郁文堂, 350頁, 2009年5月)[須澤・井出共著] ②「Mechthildにおける二つの愛 'minne' と 'liebe'—中世宮廷文学との比較研究—」(『人文学部論集〈文化コミュニケーション学科編〉』第43号, 信州大学人文学部, 13頁~34頁, 2009年3月)[共著]
- 滝澤 壽 ①『報告書 信州大学国際シンポジウム2008「新たな信州とフランス語圏の文化交流—歴史をさかのぼり未来に向けて—」』(国際シンポジウム実行委員会, 藤原印刷, 71頁, 2009年3月)[共著] ②「一九〇〇年パリ万博そして木曾谷—川上音二郎・貞奴, 福澤桃介, 島崎広助のことども—」(『クインテット』第29号, 『クインテット』刊行会, 63-83頁)[単著]
- 吉田正明 ②「プレヴェールとシャンソン—プレヴェールを歌った女性たち」(『シャンソン・フランセーズ研究』創刊号, シャンソン研究会発行, 18-34頁)[単著] ⑤報告書『信州大学国際シンポジウム2008「新たな信州とフランス語圏の文化交流—歴史をさかのぼり未来に向けて—」』(主幹, 人文学部)
- 氏岡真士 ② 1)「論《孫厩演義》と元代平話的關係」(『人文科学論集〈文化コミュニケーション学科編〉』第43号, 信州大学人文学部, 35-48頁)[単著] 2)「百二十四回本『水滸伝』について」(『汲古』第56号, 汲古書院, 24-29頁)[単著]
- 澁谷 豊 ④「ヴァレリー・ラルポー著, 石井啓子訳『恋人たち, 幸せな恋人たち』・書評」(『ふらんす』12月号, 白水社, 75頁)[単著]
- 野津 寛 ① 1)『ギリシア喜劇全集〈第4巻〉』, 岩波書店, 2009年11月20日[共著] 2)『研究社羅和辞典』, 研究社, 2009年3月25日[分担執筆779-883頁]

英米言語文化講座

- 清水明 ②「『ランバスのライザ』をめぐって」(*Cap Ferrat* 6号, 日本モーム協会, 14~17頁)[単著] ④ 1)「新井潤美著『自負と偏見のイギリス文化—J・オースティンの世界』(岩波書店)」(『英日文化』96号, 英日文化協会, 66~67頁)[単著] 2)「木下卓他編著『イギリス文化55のキーワード』(ミネルヴァ書房)」(『英日文化』98号, 英日文化協会, 72~73頁)[単著] ⑥「*Gulliver's Travels*の世界」(長野高校・学部学科研究会/講義, 2009年6月27日, 長野県長野高等学校)
- 飯岡詩朗 ⑤「「家庭」にはもう明日はない ダグラス・サーク『いつも明日がある』における知らなすぎた男」(日本映像学会第35回大会・2009年5月30日・名古屋大学)[単独]
- ⑥ 1)「ハリウッド映画「不振」のウソ/ホント」(NPO法人松本CINEMA セレクト主催「映画の教室 Vol. 1」における講義・2009年7月12日・松本市中央公民館)[単独] 2)「物語映画の〈しくみ〉」(波田町中央公民館主催「波田町生涯学習講座・おとなのタメの学校」における講演・2009年8月21日・波田町情報文化センター)[単独]

伊藤 盡 ①唐澤一友編『パーオウルフとその周辺：忍足欣四郎先生追悼論文集』（春風社）
 'Agony of Agnostos Theos: Descriptions of Grendel as Nature Genius.' 161-182. [共著] ②
 'The Gosforth Fishing-Stone and *Hymiskviða* An Example of Inter-Communicability
 between the Old English and Old Norse Speakers.' The International Saga Conference,
 Uppsala 9th-15th August 2009. 2巻429-37, 2009. [単著] ③「アドルフ・ノレーン編,
 フヴィンのショーゾールヴル作『イングリガ・タル, あるいはイングリグ列王詩（中
 編）』『杏林大学外国語学部紀要』21号, 115-24. [単著] ⑤ 1) 'Scandinavian Influence
 upon Mediaeval English: From the Grammatical Point of View.' Symposium: Foreign
 Language Influences in the History of English 大門正幸（中部大学教授）, 小塚良孝（愛
 知教育大学専任講師）, ©伊藤盡, Richard Ingham（パーミンガム・シティ大学上席講
 師）, 橋本功（関西外国語大学教授）[シンポジウム] 2) 'The Gosforth Fishing-Stone
 and *Hymiskviða*: An Example of Inter-Communicability between the Old English and Old
 Norse Speakers'. The 14th International Saga Conference Uppsala, Sweden, 9th-15th
 August 2009（第14回国際サガ学会 8月9日～15日） 8月13日（木）ウプサラ大学
 （スウェーデン）[単独] ⑥ 1) 東急セミナー BE 渋谷校にて「北欧神話の世界」2009年
 1月～7月 2) 東急セミナー BE 渋谷校「別世界ファンタジー小説を読む」2009年10月
 ～12月 3) 日本アイスランド学会 公開講演会司会：講演者：清水誠氏「19世紀歴史言
 語学研究とロマン派文学：Rasmus Rask と Jónas Hallgrímsson を中心に」および Dr
 Úlfar Bragason, "Sturla the Trickster". 2009年5月23日（土）在日アイスランド大使館
 （東京, 高輪）

杉野健太郎 ② 1) 論文「映画『泳ぐひと』, あるいは抑圧された現実の回帰」, 『中・四
 国アメリカ研究』第4号, 2009年3月, 15-27[単著, 査読あり] 2) 論文「アメリカ
 ン・ドリーム」の起源をめぐって—F・スコット・フィッツジェラルドとジェイムズ・ト
 ラスロウ・アダムズ, 『中・四国アメリカ文学研究』第45号, 2009年6月, 1-12 [単著,
 査読あり] ⑤ 1) 「アメリカン・ドリーム」の起源をめぐって—F・スコット・フィッ
 ツジェラルドとジェイムズ・トラスロウ・アダムズ, 日本アメリカ文学会中部支部第26回
 支部大会, 2009年4月26日, 名城大学名駅サテライト [単独] ⑥ 1) 学会シンポジウム
 要旨記録：杉野健太郎「F・スコット・フィッツジェラルドとアメリカン・ドリームのゆ
 くえーギャツビー, スイマー, フィールド・オブ・ドリームス」, 『フィッツジェラルド協
 会 Newsletter』No. 24（2009年9月）, 10-12[単著] 2) 教員免許状更新講習「英語音
 声・リスニングはこう学ぼう」, 信州大学, 2009年9月26日 [単独] 3) 学会誌編集委員
 会委員長, 日本映画学会学会誌『映画研究』第4号（2009年12月刊行）

芸術コミュニケーション講座

船津和幸 ②「『演戯の鏡』（*AbhinayadarpaNa* 翻訳ノート(3)）（『信州大学人文科学研究論
 集・文化コミュニケーション学科篇』第43号, pp. 81-99）[単著] ④ 1) 「天竺音楽の
 「今昔物語」(1)」（『音楽文化の創造』第51号, pp. 48-49）[単著] 2) 「天竺音楽の「今
 昔物語」(2)」（『音楽文化の創造』第52号, pp. 42-43）[単著] 3) インド音楽の形而上学
 （『音楽文化の創造』第53号, pp. 9-13）[単著] 4) 「天竺音楽の「今昔物語」(3)」

- (『音楽文化の創造』第53号, pp.44-45) [単著] 5) 「天竺音楽の「今昔物語」(4) (『音楽文化の創造』第54号, pp.38-40) [単著] ⑥ 1) 芸術コミュニケーション講座公開講座「やっぱりヴィーン音楽物語」(第8回)(まつもと市民芸術館共催・テレビ信州助成, 企画・コーディネーター)(まつもと市民芸術館, 2009.1.24) 2) 芸術コミュニケーション講座公開講座「クラシックの音故知新」(第1~7回)(まつもと市民芸術館共催・テレビ信州助成, 企画・コーディネーター)(まつもと市民芸術館, 2009.5.9, 6.27, 7.18, 9.26, 10.31, 11.21, 12.12) 3) 演劇パフォーマンス「腿を砕かれた, 難敵ドゥルヨーダナ王」(国際交流基金 JENESYS, まつもと市民芸術館共催, 企画・脚本・出演)(まつもと市民芸術館, 2009.7.31) [共同]
- 金井 直 ② 1) 「遮るものと溢れるもの—櫃田伸也の絵画」(『放課後のほらっぱ 櫃田伸也とその教え子たち』展覧会図録, 愛知県美術館, pp.15-21.) [単著] 2) 「石膏像小史—起源と変容」(『美術フォーラム21』 vol.20, pp.87-92.) [単著] ④ 1) 「「光合成」のトリニティー野村仁の植物作品をめぐって—」(『野村仁 変化する相—時・場・身体』展覧会図録, 国立新美術館, pp.131-134.) [単著] 2) 「彫刻の皮膚, 第三のコスモス」(『アトリエの末裔 あるいは未来』展覧会図録, 東京藝術大学美術学部木彫研究室, p.2.) [単著] ⑥ 1) 講演「ペノーネ: なるにつくるのあわい」(2009年8月23日, 豊田市美術館) [単独] 2) 「ギャラリートーク」(「アトリエの末裔 あるいは未来」展, 2009年10月25日, 旧平櫛田中邸) [共同] 3) 「コスチューム・イン・プレイ展を読み解く」(第58回信州大学人文学部夕べのセミナー, 2009年11月22日, 松本市美術館) [単独]
- 北村明子 ⑥ ダンス作品: 1) “Elephant Rose-no land-” (Leni-Basso 主催/日本芸術文化振興会舞台芸術振興事業公演, EU・ジャパンフェスト日本委員会助成事業公演, 平成21年3月6~8日, 横浜赤レンガ倉庫1号3Fホール) [単独演出・振付・出演] 2) オペラ「愛の白夜」(第16回神奈川国際芸術フェスティバル「明日への祝祭!」横濱開港150周年・神奈川県民ホール開館35周年, 平成21年5月8・10日, 神奈川県民ホール) [振付・出演(作曲: 一柳慧 台本: 辻井喬 指揮: 大友直人 演出: 白井晃)] 3) ビデオオペラ「KAIRO」(Art Zoyd / Centre Transfrontalier de Production et de Création Musicale 主催・Le Phénix - Scène Nationale de Valenciennes 提携, 平成21年12月11日, Le Phénix) [振付・出演(原作: 黒沢清 制作: 音楽・コンセプト: Gérard Hourbette, 演出: Edouard Reichenbach, 映像: Anne Niemetz)]